

1月は行く 2月は逃げる 3月は去る



月日が経つのは実に早いもので、今年のお正月を迎えてから早くも1ヶ月が過ぎようとしています。3学期始業式で「3学期は、あっという間に過ぎていきます。時間を大切に過ごしましょう。」と話しました。「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」という言葉をよく耳にします。年度末に向けて1年間の総仕上げをするために、月日が足早に過ぎてしまうことを例えた言葉です。3学期もあと2か月。しっかりと一日一日を大切に過ごして行ってほしいものです。

「鬼は外！福は内！」と元気な豆まき（室町時代の京都が始まったそうです）の音がする2月の節分。節分とは季節の分かれ目を指し、もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前日をいきました。現在では豆まきの風習が残っている2月の立春の前日だけを言うようになったそうです。立春とは春が立つと書き、初めて春の気配が現れるという意味です。寒い日は、まだまだ続いています。季節は春に向かって確実に動いています。



節分には、一昔前は、柵の枝にイワシの頭を焼いたものを刺し、門の戸に張り付けました。季節の変わり目に邪気(悪い気)が入りやすいとされていたので、それを追い払うように飾り付けたり、大豆の炒ったものをまいたりしました。今でも豆まきの風習は残っていて、まいた後、自分の年より一つ多くの豆を食べます。最近では、恵方(幸運を招く方角)を向いて太巻きを丸かじりする関西発祥の風習の恵方巻があります。節分の夜にその年の恵方に向かって、目を閉じて願い事を思い浮かべながら、無言で太巻きを丸かじりすると、願いが叶うそうです。ちなみに今年の恵方は「北北西」です。

新型コロナウイルスのオミクロン株やその変異株の出現や三木市のみならず全国で学校の休校、学級閉鎖されているニュースも多く聞かれるようになりました。節分では多くの人々がコロナウイルス退散の願いを込めて豆まきをするではないでしょうか。終息する日が必ず来ると信じて、学校でも感染予防策を徹底して取り組んでまいります。児童たちにも自覚して感染予防に取り組んでほしいと思います。また、学校行事等で急な中止や変更等のご連絡を届けることもあるかもしれませんが、ご理解の上、その時々への対応等についてさらなるご協力をお願いいたします。